

(1)水質汚濁

1)水温変化現象

水温変化についての予測結果から、ダム完成後の放流水の水温は、流入水の水温と概ね同程度かやや上回っていることから、環境保全目標を満足する。

2)濁水現象

濁水現象についての予測結果から、ダム完成後の放流水の濁度は、流入水の濁度と比較して全般的に低くなる傾向にあることから、環境保全目標を満足する。

3)富栄養化現象

ポーレンバイダーモデルによる予測結果から、富栄養化現象の発生する可能性は低いと考えられることから、環境保全目標を満足する。

(2)植物

オクミチヤナギ、エゾオオヤマハコベ、エゾレイジンソウについては、事業の実施により湛水区域に含まれる生育地が消失するが、対象区域の他の生育地及び湛水区域周辺に分布している同様な生育環境は現状どおり保全されるものと考えられる。

アカミノレイヨウショウマについては、確認された生育地が湛水区域から離れており、生育環境の大部分は現状どおり保全されるものと考えられる。

ヤマハナソウ及びイソツツジについては、湛水区域内で確認された生育地が消失するが、湛水区域周辺に分布している同様の生育環境は現状どおり保全されるものと考えられ、又、事業の実施に当たり、適切な対策を講ずることから保全されるものと考えられる。

このことから「環境要素への影響を努めて最小化する」という環境保全目標を満足する。